

第5回 府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨

- 日 時 令和3年9月8日（水）18:00～20:00
- 場 所 府中市役所北庁舎3階第六会議室
- 委 員 委員 井上博正 氏 委員 郭東仁 氏
委員 筒井孝敏 氏 委員★ 廣瀬健 氏
委員 丸山悦子 氏 委員 宮沢ゆい 氏
委員☆ 森田俊朗 氏 委員 森本憲 氏
(計8名)
★：会長、☆副会長
- 欠席委員 川口宣男 氏
- 傍聴者 なし
- 事務局職員 産業振興課商工係
- その他 むさし府中商工会議所 職員2名
- 議題
1. 開会
 2. 第4回協議会の議事録について
 3. 協議事項
(1)府中市商店街振興プラン（素案）について
 4. その他連絡事項
- 配付資料
- 資料1 第4回府中市商店街振興プラン検討協議会 議事要旨
資料2 府中市商店街振興プラン（素案）
資料3 府中市商店街振興プラン（素案）新旧対照表

■議題（詳細）

1. 開会

- 廣瀬会長 令和3年度第5回府中市商店街振興プラン検討協議会を開催したい。緊急事態宣言下にあり、オンライン上のWEB会議として開催したい。議事の円滑な進行に努めていきたいので、皆さん、ご協力いただきたい。
- 事務局 本日の委員の出席状況の説明を行った。川口委員が欠席。9名中8名の委員が参加しており、定足数に達しているので、本日の会議は有効に成立。傍聴希望はなし。むさし府中商工会議所に直接答弁を求めることもあると考えており、会則第5条に基づき許可をいただきたい。

2. 第4回協議会の議事録について

- 廣瀬会長 議事要旨をご確認いただいた中で、修正すべき点や気づいた点があれば、ご意見をいただきたい。その前に事務局から修正点の説明をお願いしたい。
- 事務局 5ページ、武蔵台ではなく武蔵野台と修正願いたい。
- 廣瀬会長 その他修正すべき点や気づいた点があれば、ご意見をいただきたい。
(質疑なし)
- 廣瀬会長 先ほど事務局からの修正点を反映した上で、議事録の内容を確定したい。事務局は速やかに公開の手続きを行っていただきたい。次に進みたい。

3. 協議事項

(1)府中市商店街振興プラン（素案）について

- 事務局から説明をしていただきたい。
- 事務局 事務局より「(1)府中市商店街振興プラン(素案)」について説明を行った。
- 廣瀬会長 何か、ご意見、ご質問があれば、お願いしたい。
40ページの①逸品開発支援事業（仮称）について、名称を変更しているが、ご意見、ご質問があれば、お願いしたい。
- 井上委員 名称は何でも良いが、目標値は令和11年度までに16件とある。いくら売めるのか。どのくらいの売上目標か。件数に対する金額を知りたい。このままの目標だと、仮に100万円の投資をして売上が1円でも16件できれば成功になってしまう。どのくらいの売上目標なのか。目標は、件数ではなく、売上ではないのか。費用対効果を考えないとまずいのではないのか。
- 事務局 この事業は、開発を支援することが目的の事業である。その後の販売に対して、どのような目標を設定するのは、なかなか難しい。ただし、この事業であれば、補助金ベースで考えると1件あたり補助上限が30万円となっているので、30万円以上の売上というのが、費用対効果でいえば一つ

のラインとなってくる。この事業の中で、売上の追跡や把握はなかなか難しいと思うので、金額ベースでの設定は難しいのではないかと考えている。

井上委員 30万円投資して30万円の売上で良いという事業であれば、やらない方が良い。30万円投資して30万円の売上というのは最低にもならない。ありえない。開発するための人工はかかるし。例えば、最低でも補助金額の10倍を目標にするとかを書かない限り駄目だと思う。売上目標がないのであれば、また、事業をやった、やらないの話になってしまう。10件で300万円の補助金を出すのであれば、3,000万円くらいの売上目標を書いてもらいたい。そうしないと、補助金を使うだけになってしまう。

事務局 それだけではないが、開発が主な目的となる。売れる、売れないは、開発した後の話になる。まずは、個店の目玉になるものを開発することを支援したい。

井上委員 それはそれで良いが、そうではなく、少なくとも、このくらいの売上がたつものを開発してください、というのが本題なのではないか。

事務局 元々、それほど多くのご要望をいただいている事業ではない。例えば、補助金30万円で300万円の売上目標を設定しまうと、それで尻込みをしてこの事業を使わないようになってしまうことを危惧している。

井上委員 商品開発費として、補助金30万円、持ち出しで30万円くらい使ってやるのだと思うが、60万円の開発費を使って300万円の売上にならなかつたら、皆やらない。

事務局 新商品開発は、個店の皆さんがそれぞれ努力しながらやられていると思う。従来であれば60万円かかる開発費に対して、30万円を上限として補助金が出ることで、尻込みしていた開発について、一歩踏み出していただけのような支援をしていくことが、市の基本的な考えとなる。

井上委員 それであれば、目標値のところに書かなくても良いので、事業の申し込み時の書類に、売上目標くらい書かせた方が良い。そのくらいの心意気がないとできない。

事務局 計画には、金額ベースでの記載はなかなか難しいが、事業への申請をいただく際に、売上目標や販路等について確認したい。

井上委員 何年か前にF級グルメという事業があったが、その時も目標金額等は無かった。

事務局 今回の計画では、各事業の目標として指標を定めている。なので、結果報告の追跡も必要だと思う。

井上委員 4ページは何を言いたいかわからない。結論は最後の4行くらいか。
事務局 お伝えしたいのは、最後の部分である。

井上委員 分析の仕方が少しおかしい。店舗あたり年間商品販売額、店舗あたりの売場面積が出ている。商売をしている人間からみると、m2あたりの売上を見る。そうすると、多摩市よりも府中市の方がm2あたりの売上が1割以上良い。逆に言うと、多摩市は大型店が多く、商店街がないというのは、非常によくわかる数値となっている。立川市も同じような形だと思う。また、ここは2016年の統計だが、10ページには2019年の統計が出ている。まずやって欲しいのは、年号で統一するのか、西暦で統一するのか。それは合わせて欲しい。また、出典元が3年も違う調査結果を同じ報告書の中に入れるのはおかしいと思う。やるのであれば、2019年の数値を出さないとおかしい。2016年は府中市にまだ伊勢丹があった時代。2019年には伊勢丹はない。府中市にとっては、インパクトがある違い。どちらかに統一すべきだし、2019年に統一すべき。

事務局 統計データについては最新データでお示ししている。ただし、国の調査では年度ごとに把握している調査と、数年に1度各年で実施している調査がある。平成28年と記載がある経済センサスについては、最新の結果が出始めつつあるが、現時点で府中市の結果として把握できる公開データは、最新で平成28年になってしまう。我々も、最新のデータを入手したいと考えていたが、やむを得ずこのようにお示しさせていただいている。また、年度が違う点についても、一定の留意をしながら解釈を加えることが必要とは考えているが、手元に収集できるデータをもとに、課題等を整理させていただいている。和暦と西暦が混在しているところについては、事務局内で判断したい。

井上委員 今の説明を、どこかに記載していただきたい。最新データとして、2016年までしか入手できなかったことを、どこかに記載しないとおかしい。

事務局 そのようにしたい。

井上委員 法律施行により、マイバッグ持参率は上昇している。市民マイバッグ持参運動が出ているが、やる必要はあるのか。皆、マイバッグを持っているので、やる必要はない。今、やらなければいけないのは、マイバッグの適正な使用方法の啓発だと思う。

事務局 井上委員のご発言のとおり、法律施行により、マイバッグ持参率は上昇していると認識しているが、市としては、担当課は異なるが、市民マイバッグ持参運動を継続して実施しているので、このプランでも記載している。

井上委員 ここに、適正な使用の啓発を入れていただきたい。マイバッグ持参により、相当数の犯罪者が生まれてしまっている。

事務局 マイバッグ持参に合わせて、適正な使用についてもこの運動には含まれると思う。

- 井上委員 マイバッグを増やす運動ではない。店は、正直、非常に大変である。万引きの数が非常に増加している。
- 事務局 この事業の具体的な内容の中に、今、ご指摘いただいた点を入れることは可能だと考えている。事務局内で、検討したい。
- 府中商工会議所 参考資料に意見一覧表が配布されている。これらの意見に対しての対応を説明した方が良いのではないか。
- 事務局 参考資料について説明を行った。
- 廣瀬会長 100 円商店街についてたくさんご意見をいただいているので、このテーマに絞って協議を行いたい。削除も含めて取扱いを検討したい。
- 井上委員 フォーリステナント会は、ミッテンも入るのではないか。チラシだと、ミッテン・フォーリスとなっている。
- 府中商工会議所 まだ、名称は変更していない。今のところフォーリステナント会である。商店街の方で確認する。
- 森田委員 100 円商店街と他の事業、例えば、商店街イベント事業等と使い分けないといけないのか。100 円商店街も集客イベントである。あえて 100 円商店街を分けて、別に予算をつけることを考えているのか。イベントの 1 つとして 100 円商店街もあるというスタンスに立つのであれば、わざわざ別に記載する必要はない。今回の計画では、商店街を幾つかのタイプに分けているので、商店街のタイプにあったイベントが必要なのではないか。それらを、商店街自身に選択していただき、100 円商店街もあるという形もあると思う。
- 事務局 現行プランにも、100 円商店街は記載されている。商店街活性化の三種の神器である「まちバル」「まちゼミ」「100 円商店街」を、プラン上ではそれぞれの事業として捉えている。それを踏襲する形で、次期プランの施策としてまとめている。100 円商店街については、委員の皆さまから様々のご意見をいただいているので、事業として書かないという選択肢もあると考えている。100 円商店街を 1 つのイベントとして捉えると、イベントの中にそうした手法もあるという考え方もできると思う。皆さまからそうしたご意見をいただければ、そのように修正したい。
- 森田委員 まちバルのようにうまくいっているのは、書き出しておいた方が良いのか。実際に商店街でやられている皆さんは、どうお考えなのか。
- 廣瀬会長 商店街イベント事業であれば、東京都の事業の補助対象となる。その中に、「まちバル」「まちゼミ」「100 円商店街」を入れることに何か問題はあるのか。
- 森田委員 年末の抽選会はお金が出しやすいが、まちバル等は出しにくいとか。補助金の審査上、ネガティブに反映されるのであれば、それは藪蛇な話になる。

事務局 イベント事業については、東京都の補助対象となる。補助基準に沿って補助することになる。取組によっては、対象外になるものもある。

森田委員 まちバルは、市独自の事業なのか。

廣瀬会長 市の委託事業になる。

森田委員 そういう市の事業と、都の事業がバックグラウンドにあるものと一緒になると、使い分けができないということか。そうであれば、切り分け、書き方に少し気を付けた方が良い。

井上委員 現行プランに載っているから、そのまま載せているという感覚では駄目だと思う。ダイソーさんですら 100 円～300 円で事業展開している。ワンコイン商店街だって良いのではないか。100 円でも、500 円、1,000 円でも構わない。100 円商店街と書いてしまうと、やりようがない。

廣瀬会長 実施主体が会議所さんになっているが、会議所さんはどうお考えか。

府中商工会議所 まちゼミについては、この資料で初めて知った。先ほどから何度も言うが、意見を出して反映したものだけ説明しているが、反映していないものも説明した方が良いのではないか。

廣瀬会長 100 円商店街のことを先に協議する。この事業については、削除するということが良いか。
(異議なし)

廣瀬会長 それでは、100 円商店街については、削除の方向でまとめていただければと思う。

宮沢委員 消費者の立場から考えると、その場限りのイベントで継続して買うことを考えないのであれば、100 円で魅力的な商品が並んでいるのであれば、商店街に行くきっかけにはなる。逆に商店街に行ってみて、それほど魅力がないと感じてしまうのであれば、商店街に行かないきっかけになってしまう。なので、100 円ではないものの充実が先ではないかと思う。

廣瀬会長 皆さんからのご意見も踏まえて、次期商店街振興プランから、100 円商店街を削除する方向性で事務局には考えていただきたい。
それでは、その他の項目について、お話しいただければと思う。私も第 7 次府中市総合計画との整合性をどのように反映するのか気になっている。その他の項目について説明をお願いしたい。

事務局 参考資料について再度説明を行った。

府中商工会議所 会議所の意見に対する回答はわかったが、他の委員の意見はどうか。

事務局 例として No.21 の地域通貨について回答した。

井上委員 地域通貨だが、このくらいインパクトのあるものが最初からないと、地域通貨は成り立たない。ボランティアでやった人に対してチケットを出すくらいの規模でやっているのは、商店が投資しないと思う。ふちゅちゅ並み

の金額がインパクトとして前に出ないと、皆やらない。そのくらいのことまで考えた方が良い。

森田委員
事務局

仮に地域通貨を市がやるとすると、所管はどこか。

これから調整していくことになる。今いただいたご意見は非常によくわかる。地域通貨といっても色々な考え方がある。例えば、歩いたらポイントが付くようなものも含まれてくると思う。また、デジタル化も同時に進めていく必要がある。そういう意味で、ふちゅちけのような額が大きいものも含めていかないと、事業者を含めて協力者から協力を得られないことは認識している。ただし、今販売しているふちゅちけを地域通貨に移行できるかという、それはなかなか難しい。市役所の中でも、地域通貨をやる場合に、どこが統括して、どこまでを地域通貨に含めるのか等を、話が進んでいない。そうした話が進み、地域通貨をやるとなった際には、起爆剤のようなものと一緒に抱き合わせながらスタートさせる必要があると認識している。

廣瀬会長

文言として「地域通貨について研究する」とあるので、導入に際しては、ふちゅちけ等の実績を踏まえ、今後、調査・研究を行います、という書きぶりにして、ふちゅちけとの連携や継続性について、少し触れていただければと思う。

事務局

デジタルに移行していることも加味して、記載していきたい。

廣瀬会長

まだ議論されていないところでは、商店街の一応の色分けはされているが分析されていないというご質問があるが、この点についても、少し議論が必要かと思う。

井上委員

商店街の位置づけとは何だろうというのがある。例えば、府中市近郊型だが、宮西国際通り商店会には1～2か所しか物販がない。また、本町商店街等、飲食となっているところが多い。そういう商店街がある中で、駅近郊とだけ言っているだけ良いのかという気がする。ショッピングセンター型についても、分倍河原の東芝さんがやっているところも入っていない。商店街として、生鮮三品が揃うのはくるるだけだが、他の商店街は生鮮三品がなくなってしまっており、あとは大型店となっている。商店街という概念をどのように分けているのか。本当に、駅近郊型で良いのかなと思う。飲み屋さんしかないのに、商店街と言えるのか。

廣瀬会長

第4章は、そうした考え方とは別の切り口で、立地で捉えている分け方だと思う。立地に応じて、具体的な施策の事業名を記載している場合としない場合があるが、どういうポイントで記載されているのか。

事務局

以前の会議でのご指摘を踏まえて、分類を変更した。現行計画をある程度参考にしながら、これまでポイントとしてきたものをできるだけ反映し

つつ、新たな事業として記載できる事業は記載している。ただし、基本的には、事業名まで記載することを主眼としているのではなく、立地に応じた施策展開というポイントから記載している。具体的な事業名まで記載してしまうと、計画としての柔軟性が失われてしまうと考えている。

廣瀬会長
事務局 立地特性の分析をしているということで良いか。
立地特性に応じたものをお示ししている。もし、皆さんの中で、この型に入っている商店街については、実態として、こうしたポイントがあるのではないかと、こういう記載の方が良いのではないかと等、具体的なご指摘があれば、そのように反映していきたい。

廣瀬会長
事務局 一般的に、立地を分析するときには、こうした形を用いることが多いのか。立地で分析する場合にも、具体的な事業名まで記載することはあまりしない。

井上委員 例えば、54 ページの⑥八幡町共和会は、3. その他駅近郊型なのか。③⑤車返団地商店会は4. 住宅街・郊外型になっているが、どちらが駅に近いのかといえば、③⑤車返団地商店会の方が近い。また、4. 住宅街・郊外型の施策活用のポイントとして「地域での居場所づくり」「見守り支援」が挙げられているが、3. その他駅近郊型にもこの部分はメインで入ってこないかと、商店街として利用できない。さすがに、宮西国際通り商店会に「地域での居場所づくり」「見守り支援」とすると怒られると思うが、⑭分倍河原共栄会とかは駅に近いので、地域での居場所づくりは絶対に必要だと思う。子どもたちの学童やデイサービス等、商店街の活性化の1つのきっかけになると思う。③③府中本町プラザ商店会は、まちづくりの観点では、本来は、1. 府中駅近郊型に入ると思う。⑪本町商店会は1. 府中駅近郊型に入っている。

事務局 本町に関しては、駅の北側は中心市街地活性化のエリアに入っている。本町駅の東側は中心市街地活性化のエリアに入っているが、西側はエリア外になる。③③府中本町プラザ商店会は、中心市街地活性化のエリア外になってしまう。府中駅近郊型については、中心市街地活性化計画のエリアと合わせている。そのエリア内にある商店街に関して、ひとまず府中駅近郊型としている。その他の駅近郊型については、それぞれの駅からの距離を勘案して、区分けをしている。ただし、個々の商店街を見た場合、様々な状況があると思うので、ご意見をいただく中で、修正・反映していきたい。

筒井委員 計画策定の背景・目的のところに、少子高齢化などの社会情勢の変化を受けて市民の多様化と書いてある。以前お話ししたやわらか飯ステッカーに対して補助をもらって行う事業はどうか。高齢者のやわらか飯もそうだし、離乳食等の子どもたちもそうだが、そうしたものを府中市の商店街

が一丸となってやる事業はどうか。そうした具体的な事業を令和11年までに実施しても良いのではないかと。また、ポイントについては、ボランティアポイントは社会福祉協議会のポイントで大した取組にはならないと思っているが、健康づくりという点で考えれば結構良いきっかけになると思う。さらに、担当が府中市の場合、どこの部署がやるのかという問題がある。社会福祉協議会は、ボランティアの方を含めて居場所づくり、やりがいづくりをしたいと考えている。現金でやり取りしているものを、ポイント制度でできないかと考えている。やりたい人とやってほしい人とのマッチングを手作業で行うのは限界という話も出ている。こうした部分を、府中市がやってくれると良い。そうしたボランティアポイントを、商店街の中で使えるものと、市全体で広く使えるシステムになったら良いと考えている。そのあたりは、令和11年までに開始したいと書いてあるので、じっくり内容を練っていけば良いと考えている。①逸品開発支援事業については、地元の野菜となってしまうと、なかなか難しいと思う。それ以外であれば、新しく開発したものに対して、特徴を出して皆でやると、それを目当てに来る人達がいると思う。話題になれば、人気も出てくると思う。

事務局 地域通貨については、今後制度を確立していく中で、今いただいたご意見を含めて検討していきたい。やわらか飯は、既存の補助金の中で事業として実施できると考えている。例えば、飲食店が多い商店街が、商店街の取組として、活性化のために何か事業を行う。例えば、やわらか飯を絡めて何かをする。そのためのステッカーやポスターは、活性化のための補助金の中で対応できると思う。やわらか飯の開発についても、開発支援事業等を活用していただければ、商品開発も可能だと思う。地元野菜等としている点については、文言を修正した方がよろしければ、地元野菜を削除することも、事務局としてはありだと考えている。

廣瀬会長 今ご指摘のあった点については、「地域資源を活用した魅力ある商品」という言葉に変えさせていただき、「地元野菜等」の文言を削除することで良いか。

(異議なし)

筒井委員 先ほどの話で、ステッカー等も補助対象となるとあったが、希望した商店街だけの分だけ事業の予算に入れるということか。府中市全体で事業を行う人たちに配ることができるような文言が入るとありがたい。

廣瀬会長 商店街単位ではなく、市全体の事業として取り組めないかということか。
筒井委員 少子高齢化という時代に沿った形となると、やわらか飯のニーズは出てきた。たまごネットで「やわらか飯」と検索すると、結果として幾つかの

商店街・店舗が出てきて、そこに行けるようにする等を考えている。そうした検索の後、実際にお店に行ったときの目印として、ステッカーがあったら良いと考えている。細かい話だが、そのステッカー代をどの事業の予算を使って作成できるのかを知りたい。

- 事務局 商店街単位に取り組む場合には、既存事業での補助対象になる。この商店街には、商店街連合会も含めているので、商店街連合会もが市全体として実施するのであれば、それも補助対象となる。
- 筒井委員 その話しを、商店街連合会や商工会議所に持って行ったときに、そこでコンペをやって、説明をして、事業として良いのか悪いのかをしないといけない。やわらか飯に限らないが、市全体の商店街として共通してお客さんを呼ぶとか、時代に合った事業をすとか、そうしたことを計画の中で謳ってあれば、やりやすくなると思う。ポイントの件は、計画に記載してあるので、後々できると思う。個店や商店街対象ではなくやることに対して、市全体で共通の事業を起こしていくようなことを記載してもらおうと良い。
- 森田委員 42 ページの②地域活性化統一事業は、いろいろな団体と連携を認めますとある。この事業を活用して横串をさして、どこかが事務局になり音頭を取る必要があるので、結果的に商店街連合会を外す訳にはいかないと思うが、この事業を読み解くと、統一キャンペーンのような形で、ステッカーやポスターを作ることも、話を通しやすくなると思う。
- 筒井委員 商店街連合会や商工会議所も来ているので、そういうことを提案して、意見が揃えば、予算を取ってくることは可能か。
- 府中商工会議所 商店街連合会の統一事業だが、1年前に計画を立てて要望を出す。それから予算が通るかどうかで、市の補助金が出るかが決まる。もう1点、商店街単位という形で市役所の要綱がどうなっているのかもがあるが、連合体だけでなく、商店街でも対象になるということであれば、構わないと思う。
- 丸山委員 これまでの話を聞いて思ったことがある。①逸品開発支援事業について、新しいものの開発にばかり目がいつている印象がある。今までにあるものの掘り起こしは含まれていないのか。商店街振興プランということでもまちのイメージがあり、商店街の分類はこれで良いのかという話もあったが、それに加えて、商店街の売っているもの種別でのプランも必要なのではないか。全体として、具体的なイメージが湧かない。このプランを読んで、何をやったら良いのか。このプランを読むのは、商店街の当事者だが、その人たちがこのプランを読んで、いかに理解して、それならこうした事業をやってみようとか、そういうことを思い描けないと、なかなか実現できないのではないかと。例えば、40 ページ以降、具体的な取組が記載

されているが、具体的な内容が見えてこない。このあたりに、この事業をやるとこんなことができますというような具体例を載せておくと良いのではないか。

事務局 逸品事業は、新たな商品を開発するものと捉えている。既存の商品については、別の事業で販路開拓等の仕組みもある。掘り起こしについては、そうした事業の活用を考えていただければと考えている。立地別や具体的な取組イメージについては、新たな視点での貴重なご意見として受け止める。いただいたご意見を含めて、これまで5回の会議をしてきたと考えている。これまでのご意見で反映できていない点もあるかと思うが、このタイミングであると、小幅な修正は可能だが大幅な修正は難しい。反映できる範囲で、これから検討したい。

廣瀬会長 例えば、①逸品開発支援事業のところに、掘り起こしについては、小規模事業者の販路開拓を参照してくださいというような記述があると良い。40ページ以降の内容の部分に、具体的な取組をイメージしやすいように、具体例を示すことは難しいのか。過去の実例を入れてみてはどうか。40ページの②TOKYO 地域資源等活用推進事業の※のように具体例を示したら良いのではないか。

森田委員 過去の実例なら問題ないのではないか。例えば、洋菓子の掲載とか。
事務局 全ての事業ではお示しは難しいと思うが、加筆した方が良い事業については、できる範囲で修正したいと思う。

丸山委員 ①逸品開発支援事業については、それならそれで良いが、結局、新規開発とずっと言っているが、新規というのはハードルが高いのではないか。今から売れるかわからない商品を開発することは、結構な体力が必要で、難しいのではないか。それならば、手を付けやすいところから、例えば、商工祭りのようなときに、皆さんから府中の特産物を聞くようなコーナーをつくるとか。今あるものを、もっと売れるようにするとか。そういうのも必要だと思う。逸品なんて、なかなかできないと思う。より身近にあるものを、あらためて再認識してみるとか。もう少し現実をみて、プランを考えることも大事だと思う。

事務局 商品開発は逸品開発事業で進めたいと思うし、既存の商品は販路開拓で進めていきたいと考えている。また、開発した商品をイベント等で紹介や販売することについては、40ページの③に含まれていると考えている。

廣瀬会長 そのあたりは、前段の文章のところに、既存の商品に関しての磨き上げのことを追記すれば良いのではないか。

森本委員 商店街が事業申請する場合、非常に手間がかかるので、二の足を踏んでいる商店街が多いのではないかと思う。そうした意味で、手続きの簡素化は

必要だと思う。

- 事務局 イベントを実施する際の補助金の申請等、事務局的な面でのニーズがあると受け止めている。手続き自体の簡素化はなかなか難しいと思う。本プランの43ページの⑤商店街PR活動支援専門員派遣事業で、PR活動、イベント企画・集客、補助金代行支援等の専門員の派遣を通じて、支援をしていきたいと考えている。
- 森本委員 小さな商店街にはハードルが高いので、そのあたりの方法を考えてもらうと、非常に助かる。
- 郭委員 いろんな問題があるので、なかなか答えをだしきれないところはある。府中市の飲食店と提携し、府中産のものを何か食べることができるような取組があれば良い。これだけは全店で使ってほしいなど、広げていけると良いのではないか。
- 事務局 地域資源の中には、農作物も含まれる。例えば、逸品開発事業で、地元の農産物を使った商品の開発等ができてくれると嬉しいと思う。また、商店街のイベントの中で、うまく農家さんとタイアップしていただき、その中で、農作物の販売ができれば良い。
- 廣瀬会長 委員の皆様からいただいたご意見については、事務局で検討していただき、できる限りプランへ反映していただければと思う。次回の協議会が最後となる。最終回では、プランの最終確認となる。次回の会議で、答申書の中身を確認していただくことになる。事務局で答申書案を作成し、ご提案いただければと思う。

4. その他連絡事項

- 事務局 事務局より連絡事項を伝達。
- 廣瀬会長 日程について、皆さんご都合はいかがか。
(異議なし)
それでは、次回は10月7日(木)18時から開催する。
以上をもって終了する。

以上